

G I G A校内研修推進リーダー研修 「校内研修による前期の実践」

輪島市立門前東小学校

G I G A校内研修推進リーダー 田中健太・水岡大和

本校では今年度、昨年度比で職員数が減少し、一人一人の業務負担が増加したことにより、全職員参加型の研修会を定期的に行うことが難しい状況である。しかし、校内研修のみではなく、NTTの方やICT支援員のサポートを活用した授業支援や相互参観を通して、クロームブックを少しずつ授業に取り入れることができるようになってきた。

以下に各学級の実践を紹介する。

・1年生

まだタイピング等はできないが、簡単なアンケートの回答や教師からの伝達事項の確認等をクラスルームを用いて毎日行っている。児童もすぐに慣れ、その日の予定の確認を確実にできるようになった。アンケートは、家庭学習時間調査など、簡単に回答できる場合に活用している。集計の手間が省け、瞬時に結果を共有できている。



また、生活科では、育てているあさがおをカメラで撮り、その成長過程をスライドに残している。絵や文章では残せない、リアルな成長の記録を各自で残すことができている。



フォームやスライド、ジャムボードなど、多くの機能に触れる学習活動を通して、「活用」という段階まで進めているとは言えないが、画像の挿入の仕方・各機能の使い方など、これからの活用の基礎となる部分を覚えることができている。

・2・3年生

1年生と同じく、クラスルームで毎日の伝達事項の確認やアンケートを行っており、クロームブックを開くことが朝のルーティンとなっている。



算数の授業においては、AIドリルを積極的に活用している。はじめの頃は問題を解くことばかりに集中し、解説を読んで、なぜ間違えたのかを理解することが疎かになっていた。しかし最近では、問題を解くだけでなく解説も読むことができおり、学習が定着している。反復して様々な問題に取り組むことによって理解が深まっている。



スライドを使った発表やジャムボードの活用（背景・ふせんなど）にも積極的に取り組んでいる。

3年生の社会科では、町探検の際、カメラ機能を使って写真を撮り、それを基に見学したことを思い出しながら発見カードを作った。また、meetを使って特別支援学校輪島分校と交流を行った。

・4・5年生

総合では、タイピングソフトを使って、2分間に何字入力できるか定期的に取り組み、表に記録してきた。どの児童も、記録が伸びてきており、スムーズに入力できるようになっている。また100字以上入力できる児童が、6月には1人だったが、7月には6人に増えた。

4年生の社会科では、インターネットを使って、石川県の特産物を調べた。それぞれが調べた内容を基にPR紙を作った。

5年生の社会科では、資料を読み取り、分かったことや考えたことをジャムボードにまとめることができた。児童自身も分かりやすく伝えるために、付箋だけでなく、矢印を使ったり、レーザーポインターで指し示したり、工夫して表現することができた。

・6年生

総合で、調べてきた総持寺のことをスライドを使ってまとめることができた。色の変化をつけ、アニメーションを工夫したり、自ら選んだ画像を挿入をしたりして上手にまとめ、発表することができた。

社会科では、資料集についているQRコードを読み取り、関連動画を児童に見せた。(例：スウェーデンの選挙の様子など) 児童は理解を深めることができ、授業者自身も効率的に効果的な動画を提供することができた。



【成果】

- ・NTTの方(5月中に6回)やICT支援員のサポートが効果的だった。それにより、教員のスキルが向上し、クラスルームやフォーム、ジャムボードを積極的に使えるようになってきた。
- ・教員同士で授業の相互参観を行い、クロームブックの活用場面・活用方法を学ぶことができた。よい活用は各学級に合うようにアレンジして取り入れることができています。
- ・児童自身が、学んだことをアレンジして、主体的に学ぶことができた。
- ・校内研修を月に1度は行い、使い方や機能について確認することができた。それらをまとめたものを配付することで、研修で学んだことを授業で活用できている。
- ・研修で学んだことを基にして、学年間のばらつきなく、どの学年も積極的にクロームブックを活用できている。
- ・中間目標に設定した「1日1回以上の使用」や『カメラ』『検索サイト』『文書作成』『アンケート機能』のうち、1つ以上の日常的活用」を達成できている。

【課題】

- ・授業において、クロームブックを使うことに気持ちが向かってしまい、ノートを書くことがおろそかになってしまった児童がいた。
- ・時間配分や個別支援の方法を改善していくことが必要である。
- ・ただ「使う」のではなく、「効果的に使う」ための活用方法を考えていく必要がある。
- ・AIドリルをどの場面で活用するのが最も効果的であるかを検討したい。
- ・クロームブックを活用した場面を気軽に投稿できる場の設定をし、研修時間なしで事例を共有できるようにしていきたい。